

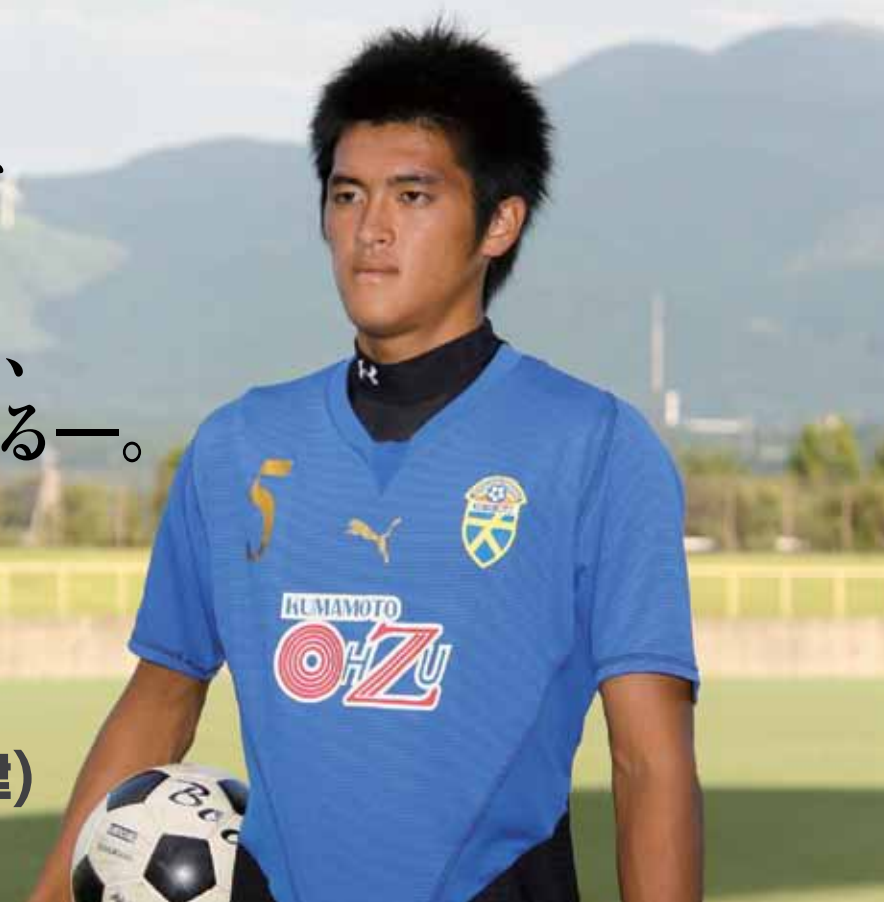
植田 直通
Ueda Naomichi
1994.10.24 185cm 73kg
熊本県立大津高校サッカー部



高校総体終了後、大津高校白濱校長と役場に来てくれた植田くん。今後の意気込みを家入町長たちに語った。

大津のサッカーが
世界で通用することを
彼は、教えてくれた。
しかし、彼の眼差しは、
まだまだ遠くを見ている一。

う え だ な お み ち
植田 直通さん(大津)



「監督にはいろんなことを教えてもらいました」と平岡監督に対する尊敬も強い。特に好きな名言は「1技2万回」という言葉。一つの技でも2万回練習すれば自分のものになるという意味だ。その他にも「24時間をどうデザインするか」など教えてくれた。「今は食生活もかなり気を付けているんです。今は24時間というより1カ月でデザインしていますね」ときっぱり。

ワールドカップでは、アルゼンチン戦でゴールを決めたが、「練習でやっていただけをいつも通りやっただけ」と冷静に分析する。準々決勝でブラジルに惜敗。「次はブラジルに絶対勝ちたいです」と早くもリベンジを燃やす。先日、植田くんはU-18の代表に選出された。しかし彼の目標は、A代表(日本代表)になって、海外のチームでプレーすること。U-18代表も、そのためのステップアップだと考えているのだろう。彼のブラジルへのリベンジ達成もそう遠くはないだろう。

とはいえ、今は全国高校サッカー選手権大会に目を向けている。先日秋田県で開催された高校総体では、無念の3回戦敗退。「これからの大会は、優勝しか考えていません。絶対優勝したいと思います」と植田くんは意気込みを新たにしていた。

親の協力を常に感謝し、今まで支えてもらった多くの人にも感謝は忘れていない。「もっとサッカーを盛り上げていきたいです。いろんな世代の人にサッカーの魅力を伝えていきたいです」と語る彼は、日本のサッカー界を背負って立つ自信が感じられた。

6月18日メキシコで開催したFIFA U-17 ワールドカップ2011。18年ぶりにベスト8まで勝ち進んだメンバーの中に大津高校の植田直通くんがいた。センターバックをポジションに、アルゼンチン戦では、得意のヘディングでゴールを奪い、その身体能力の高さを世界に見せつけた。彼が大津高校で学んだこと、これからのことを聞いてみた。

小学校2年生からテコンドーを始めた。保育園の先生が指導していた道場に通い、練習を続けた。抜群の身体能力とスポンジのように技術を吸収する力は、子どもの頃から彼に備わっていた。その努力は、彼をテコンドーの日本チャンピオンにした。世界大会出場は、簡単な努力では達成できないはずだ。

テコンドーと同時にサッカーを始めた。きっかけは、友達が始めたから自分も始めたというよくある話だったが、それでも中学生まではテコンドーとサッカーを両立させた。そして高校からはサッカー一本でやっていたことと決めた。

「サッカーをするなら大津高校でやろうと決めていました」レギュラーを約束される高校ではなく、レギュラー争いをしながらサッカーができる場所に行きたかった。その向上心が彼の人生を良い方向に導いている。平岡和徳監督との出会いもそう。中学時代まではフォワードだった植田くんを1年生の夏にセンターバックにチェンジさせたのが平岡監督だった。今でこそセンターバックとして有名になったが、彼の特性を上手く見出したのだ。